

## 優秀賞

### 一人ひとりが尊い命

大阪市立茨田北中学校 三年 吉村よしむら 風香ふうか

「障害者は生きていても仕方がない。」

この言葉は先日神奈川県内の障害者施設で障害者十九人が殺害され、平成史上最悪と言われた事件の容疑者が供述したものです。容疑者はその施設の元職員という事実を知り、私の心には衝撃と怒りが走りました。だって一般人が殺害してもおかしいのに、元職員が殺害したとなると子どもを預けていた保護者がその施設や他の障害者施設に預けられなくなりますよね。もし自分の子どもが殺されたら、と考えると不安でたまらないと思います。

私の姉は重度の知的障害者です。だからこそこのニュースが目に入り、取り上げようと思いました。そこにはある二つの思いがあったのです。一つ目はこういった「差別」によって苦しむ人が存在するということです。その結果心に傷がついたり、殺害されるなんてもつてのほかです。それなら本当に障害者は生きていても仕方がないと思いますか？そんな事は有り得ないですよ。二つ目は私はこの事件をきっかけに「このようなことがもう二度と起きてはいけません。」と日本国民全員に思っしてほしいのです。人を殺害するという行為は罪のない大切な大切な人の命を奪うということだから絶対に行ってはいけない行為なのです。それがどんな人であっても。

(何で皆受け入れてくれへんの?)

私の姉に障害があるのは小学校の時に知りました。私が小学校に入学したとき姉は小学六年生で、一年生は一階、六年生は三階に教室がありました。でも、姉は一階の教室に通っていました。なぜならそこはあゆみ学級という障害のある児童だけの教室だったからです。その教室にはいろんな遊び道具があったのでしょっちゅう遊びに行っていました。私の家族は昔も今も本人が出来ないことは助けてあげるし、私の友達もこの頃は姉とは普通に接してくれました。小学校の時はこれが当たり前の生活でした。でも、私は中学校に入学してから姉の存在

を隠すようになりました。ある日体育館で障害者についてのビデオを学年全体で見るとき、私の周りの生徒はクスクスと笑っていました。何がおかしいのかと腹が立つと共に、こういう風に受け止められなければならないのかという悲しみがつのって、その場で涙があふれました。なかなか収まりませんでした。私の姉とは違う障害がある人だったけど私の姉も笑われているような気がしたのです。私が姉の存在を隠してきた理由は笑われるかもしれない、可哀想に思われるかもしれない、そう思っていたので言わなくて良かったなあと感じました。でも本当は優しく受け止めてほしいのに…。

「何があったん？」

ビデオを見終わって並んでいるとき、目を赤くしている私に声をかけた主は親しいクラスメイトでした。事情を全て話すと、さっきの私の周りにいた生徒とは裏腹に急に泣き出してしまいました。話を聞くと「同じ人間なのに『差別』するなんてひどい」と言ったのです。その瞬間私は気付きました。障害者を「差別」する人は見ただ目で判断しているだけで本当は何も分かっていないのです。

今後このような社会を放置しておいて良いのでしょうか。絶対に駄目です。中学生の時点で人を「差別」する心を持っているのなら大人になっても確実にその思いは残るはずです。だったら私達は何をすべきなのでしょう。それはもう一度人は皆平等ということを理解し直し、どんな人でも受け入れられる広い心を持つことで「差別」という言葉を使う必要性がなくなることでしょう。人間という生き物は誰もが自己中心的な思想を持っているものですが、生きていても仕方がない人なんてこの世の中に存在しないのですから、殺害まで踏み込むのはやはりおかしいと思います。その前に何らかの解決策はあるはずです。でも今日までいろんな人々が「差別」に対して訴え続けても平和な社会にならないのだから、一生この苦しみを耐え抜かないといけないと思うと、とても不安です。これから出来る友人、お世話になる先生、恋人、先輩、後輩…いつか姉の事について話すことがあったとき受け入れてくれるのか、不安でやはり私は怖くて言えないと思います。どうか、これを読んでくださっている人がいるのなら、少しでも良いので障害者やその家族が「差別」されている今をどうすれば良いのか考えてみて下さい。